宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2022

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

五穀豊穣の感謝捧げる

伏見稲荷大社で火焚祭

全国から十数万本の火焚串

京都市伏見区

火床に塩を投じる舟橋雅美宮司＝11月8日、伏見稲荷大社

全国の稲荷神社の総本宮である京都市伏見区の伏見稲荷大社（舟橋雅美宮司）で1月8日、五穀豊穣を感謝する火焚（ひたき）祭が斎行された。本殿では舟橋宮司が、祝詞を奏上し、今年刈り入れられた稲穂が焚き上げられて、神に収穫を感謝する神事が行われた。続いて祭場では、大勢の参拝者が見守る中、3基の火床にお火焚の炎が勢いよく燃え上がり、人々は罪穢れの消滅や福運の招来を祈った。

火焚祭は、2月の初午（はつうま）大祭で稲の成長を願い、春から夏にかけて地に芽吹きと生育を与え、秋の実りをもたらしてくれた稲荷大神の御神徳に感謝する神事である。火焚祭は、本殿で行う「本殿祭」と、鳥居が重なる千本鳥居の手前の祭場で行う「火焚神事」とからなる。

本殿祭での神事の後、祭場に集まった大勢の参列者が見守る中、神職が大松明で火床に火を点じると、炎は勢いよく燃え上がった。火床は、一辺が約3メートル、高さ約1メートルで、深緑のヒバの葉で覆われている。

大祓詞が「（のこる罪はあらじと）～佐久那太理（さくなだり）に落ち多岐（たぎ）つ 速川の瀬に坐（ま）す瀬織津姫（せおりつひめ）という神大海原に持ち出でなむ～」と奉唱される中、舟橋宮司が燃えさかる火床に榊葉と塩と水を投じた。そして、全国から奉納された十数万本の火焚串（ひたきぐし）を、神職が祈念を込めて次から次へと投じると、火焚串は放物線を描いて炎に吸い込まれていった。火焚串には「罪障消滅」「万福招来」「家内安全」などの願いが書き込まれている。5メートルにも上がる炎は人々の顔を火照らせ、神楽女による神楽が奏された。

参列者は約2時間続くお火焚きの神事に見入っていた。フランスから来た50歳の男性は「素晴らしい神事だ。この後、千本鳥居を巡り、夜は御神楽を見る予定です」と話した。

伏見稲荷大社は式内社（名神大社）で、現在は単立神社。全体が神域の稲荷山の麓に本殿があり、全国に約3万社ある稲荷神社の総本宮で、初詣には近畿の社寺で屈指の参拝者が集まる。

主祭神は宇迦之御魂大神（うかのみたまのおおかみ）、佐田彦大神（さたひこのおおかみ）、大宮能売大神（おおみやめのおおかみ）、田中大神（たなかのおおかみ）、四大神（しのおおかみ）の五柱の神を一宇相殿（一つの社殿に合祀する形）に祀る。

古代、稲荷山を神がまします「神奈備山」として崇拝したことに始まり、農耕の神として祀られ、後に殖産興業の性格が加わり庶民から広く信仰されてきた。この辺りは渡来系の秦氏の有力な根拠地の一つでもある。平安時代、2月の初午の日に稲荷山へお詣りする習慣が盛んとなり、清少納言も稲荷詣の体験を『枕草子』に記している。東寺（教王護国寺）の造営には鎮守神となって真言密教と結び付き、天慶5年（942）に正一位の極位を得た。東寺との関係は今も続いている。

稲荷山の参道に立つ千本鳥居

明治の神仏分離令によって境内の仏堂は廃されたが、一方、七つの神蹟地が定められて親塚が立てられ、その周りに個人の信仰により表現された神名を刻んだ塚が奉納され「お塚」と呼ばれている。同大社は特に商いの成功（結願）を祈る商人の信仰を集め、お塚の数は1万を越え、結願のお礼に朱色の鳥居を奉納する習慣が広まり千本鳥居となっている。

神戸で第6回「世界平和 祈りの幕開け」

イスラエル大使、宗教者ら300人が参加

2022年度の「世界平和 祈りの幕開け」が、神戸市で開催された。イスラエル特命全権大使ギラッド・コーヘン氏をはじめルワンダ、ボツワナ、タンザニア、イタリアなどの大使や総領事、多くの宗教人や文化人ら約300人が参加した。

このイベントはNPO神戸平和研究所（杣浩二理事長）が主催するもので、今年で6回目となる。

杣浩二理事長

ギラッド・コーヘン大使

開会にあたり、イスラエル国名誉領事で同研究所の三宗司郎所長は「私たちの研究所は、阪神・淡路大震災を契機に、民族・宗教・文化の差異ではなく共通点を見出すことにより世界平和を実現するため、神戸から声を上げようと2010年に出発した。小さな会が多くの方々に支えられ、このように発展したことに感謝する」と挨拶。

続いて、仏教、神道、イスラム教、キリスト教、天理教、大本などの代表者が、それぞれの形式で祈りを捧げ、踊りや演奏などを奉納、ウクライナの戦火の中にある人々などを思い参加者全員で世界平和を願った。

記念講演では、杣浩二理事長が英語版の『世界には二つのシオンとエルサレムがある』の出版を記念して、これまでの研究成果の一端を披露した。その中で、日本の神興と旧約聖書に登場する契約の箱が酷似していること、神興を担ぐ際の「エッサ」や相撲の「ハッケ・ヨイ」など、日本語では意味不明の言葉がヘブル語では、それぞれ「持ち上げる」「投げろ・やっつけろ」の意味になるなど、日本と古代イスラエルの共通点に気づいたところから研究をスタートさせたと語った。

その後もエジプト、メソポタミア、イスラエル、中国、韓国、日本の遺跡や遺物に刻まれた図像に共通する事実を発見し、世界の文明のルーツが一つであることを確信、それらを『世界の文化は聖書から―我々は一つの家族』などの著書にまとめてきた。その結論的研究成果が今回の出版であり、聖書に記されているシオンとエルサレムが日本ではないかという内容だと説明した。

エジプトやペルシャなどの古代文明は、すでに遺跡となっているが、日本は伊勢神宮などの神社儀式、文化や日常習慣の中に今なお古代からの宗教精神が生きている稀有な国だと強調、「聖書に予言されている『神の栄光を表す国（イザヤ書）』が日本であるならば、私たちが世界平和のための重要な役割を担っているのではないか」と締めくくった。

これらの研究成果は、来年と再来年にイスラエルのヘブライ大学に招かれ発表することになっているという。

杣理事長の講演後、伊弉諾神宮の本名孝至宮司の乾杯の音頭で会食が始まり、イタリア人ヴァイオリニストのマウロ・イウラート氏による演奏が会場を彩る中、宗教や国の違いを超えて多くの参加者が和やかに歓談した。

「1」が4つ並ぶこの日、来年も11月11日の午前11時に第7回「世界平和 祈りの幕開け」が開催される予定だ。

第6回「世界平和 祈りの幕開け」。壇上に並ぶ各宗教の代表者、外交官ら＝11月11日、神戸ポートピアホテル

社説

近代の終焉

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行は3年を超え、各国の対策により世界規模ではほぼ落ち着きつつある。世界保健機関（WHO）は、将来、感染症のパンデミックが発生した場合の対応について、コロナ禍で得られた教訓をもとに、ワクチンを途上国に行き渡らせる仕組みや、感染症拡大を防ぐためのWHOの権限強化について、条約策定に向けた協議を始めるという。

一方、ロシアによるウクライナ戦争で露呈したのは、責任ある常任理事国が国連憲章を破るという国連の構造的問題で、国連改革も早急に議論されなければならず、グローバル化時代の政治哲学が求められている。

今、私たちが直面しているこれらの課題の基本にあるのは、人と自然、そして人と人との付き合い方の見直しである。

アジア太平洋放送連合（ABU）が優れた作品を表彰する「ABU賞」のテレビ部門で、新潟県中越地方の棚田で自然の厳しさや美しさをとらえたNHKスペシャル「新・映像詩 里山 新潟の棚田 豪雪と生きる」が選ばれた。人と自然との好ましい付き合いから生まれたのが里山である。

再放送された同作品を見て、自然と共に生きる中から形成されてきた人々の暮らしと文化、そして毎朝、ブルドーザーで各戸の玄関先まで雪かきをしている高齢者の「地域が塊のようになって生きている」との言葉が印象的だった。とりわけ地方に暮らす人たちは共感しただろう。

そうした風土に民俗宗教である神道が生まれ、渡来した普遍宗教である仏教が根付き、神仏習合・神仏補完の日本的宗教が生まれた。古代インドの人たちが求めた「梵我一如」の日本的展開とも言えよう。庶民に浸透する過程で仏教諸宗派が生まれたが、いずれもそれぞれの道を通し仏の心に至る教えである。神仏の心に少しでも近づくことで、利他行が自然に、感謝を伴って行えるようになる。

人と自然にどう向き合うか

自然の中から生まれてきたのが人類である以上、そうした心性は世界に共通している。例えば、パウロは「神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められる…」（ローマ人への手紙1・20）と、ギリシャで発達した理性ではなく、幾多の歴史物語を通して語り伝え、培われてきた信仰によって自然を賛美した。それは、最澄や空海が唱えた「山川草木悉有仏性」に通じる。

現代を近代の終焉の時代ととらえると、今は近代の始まりから学びなおす時かもしれない。その一つの現象が17世紀の哲学者スピノザに関する著作の相次ぐ出版である。その著者の一人で哲学者の國分功一郎東京工業大学教授は「ありえたかもしれない、もうひとつの近代」とスピノザの思想を評している。

デカルトから約30年遅れて生まれたスピノザは、ユダヤ教のエリート教育の上に当時の自然科学の知見を踏まえ「神すなわち自然」を唱え「汎神論」として知られている。デカルトが神と我を対峙させたのに対して、スピノザは神の中にある我から思想を展開した。その思想的系譜は、イエズス会の司祭でありながら北京原人の発見にも加わった古生物学者で、後にキリスト教と矛盾しない進化論を唱えたテイヤール・ド・シャルダンにつながり、彼の説は最新の「超進化論」と驚くほど符合している。

近代国家の始まりとなった国家理性の考え方が16世紀に現れた背景を、政治学者の大竹弘二南山大学准教授は「近代初期の著作家を悩ませていたのは、宗教が神学が規範としての拘束力をもたなくなったところで、いかにして安定した統治と支配を実現できるかということであった」と説明する。そこから現在を考えると、国際社会の安定した統治を可能にする政治哲学が、今こそ求められていると言えよう。

それはこれまでの宗教・文化史を踏まえながら、科学的な成果も収めるものでなければならない。かつエリート層だけの思想ではなく、広く大衆が受け入れられるもの。別の言い方をすれば、そのレベルまで人々が発展することが求められ、視野に入ってきている。そう考えると、人類はまだその可能性の一部しか花開かせていないのかもしれない。

人に寄り添う

歴史を俯瞰すると、宗教は幾多の試練を経ながら時代と社会に対応して変化し、発展してきた。宗教をめぐる今の日本の状況も、その一つと考えれば理解できよう。問題は、どの方向に変わっていくかである。

多様な人たちが共に暮らす以上、自律と相互理解・協力が求められるのは当然で、権威的にではなく「人に寄り添う」教えと実践も不可欠である。

さらに人々が本心からの喜びを感じるのは自身の成長を実感するときで、その手立てを宗教が編み出してきた歴史を、今に生かすことであろう。ともあれ、コロナ禍とウクライナ戦争の終結を祈りたい。

灯

「神の前で、そして生きている者と死んだ者とを裁かれるキリスト・イエスの前で、その出現と御国とを思い、私は厳かに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを続けなさい。忍耐と教えを尽くして、とがめ、戒め、勧めなさい。誰も健全な教えを聞こうとしない時が来ます。その時、人々は耳触りのよい話を聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話へとそれて行くようになります。しかしあなたは、何事にも身を慎み、苦しみに耐え、福音宣教者の働きをなし、自分の務めを全うしなさい。」（テモテへの第二の手紙 4：1―5）

迫害する者から一転、キリストの証人となったパウロは、艱難辛苦を乗り越え、新たに悟った教えをローマ帝国に広げていった。晩年、囚人として引かれて行っても、信仰は揺るがず、死が迫るなか、弟子への遺言は、信仰者としてまっすぐに生きよ以外にはなかった。行いに裏打ちされた彼のことばは、何代にもわたり人々の人生の指針となっていく。（1）

天地

地元の文化財保護協会の一日研修で兵庫県淡路市黒谷にある弥生時代の五斗長垣内遺跡（ごっさかいといせき）を訪ねた。弥生時代後期における日本列島最大規模の鉄器生産集落で、淡路島の西側海岸線から3キロの丘陵地にある▼鉄器生産工房として使われた竪穴建物23軒から成り、うち12軒から鉄を加工した鍛冶炉跡が確認され、鏃、鉄片、切断された鉄細片、朝鮮から輸入した鉄の素材の鉄鋌など75点が出土している。石槌や鉄床石、砥石など、鉄を加工する石製工具も出土し、これまで発見された弥生時代の鉄器生産遺跡では最大規模。住居ではなく、鉄器製作に特化した特異な遺跡である▼五斗長（ごっさ）は遺跡を囲む集落の名前で、棚田ばかりで貧しく「石高が五斗あればその地の長になれる」というのが地名の由来だという。淡路島は田んぼ面積当たりのため池の数では香川県より多く、米作りに苦労してきた。伊弉諾神宮の境内にある住吉神社は、ここでは稲作の神▼弥生時代後期の鉄器は古代国家形成のカギの一つで、2世紀後半に「倭国大乱」が起きた。その時期に100年間活動し、突如、消えたのが五斗長垣内遺跡（1世紀後半～3世紀前半）。武器から農具まで鉄器の需要が絶えることはないので、適地を求めて工房を移したのであろう▼古代は舟運の時代で淡路島はその拠点。丘の上から海を眺めると、製鉄技術を持つ海人（あま）たちが、海を見渡しながら倭国の将来も見通し、畿内へと移動して行った光景が見えてきた。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税・郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL 078(882)9305 FAX 078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる「愛と生命と知恵」に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分。こんな筈では。自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554